

夏の企画展 「MADE IN THE SHADE」

6月14日からレイバー・ディ(9月5日)までの夏季の開廊時間のお知らせ

月曜～木曜:9:30 AM -5:30 PM 金曜:9:30AM - 4:00 PM 休廊日:土曜・日曜

Pace/MacGill Gallery 【ペース・マクギル・ギャラリー】(32East 57th Street)より、来る6/27から8/26まで開催される夏の企画展、「MADE IN THE SHADE」のご案内をさせていただきます。

コンテンポラリーと巨匠たちのセレブリティグループのモダンとヴィンテージプリントから厳選した【MADE IN THE SHADE】は、美的次元同様、この言葉の持つ独特な意味を追求したものです。

1950年代から使われるようになった【MADE IN THE SHADE】は、“極上の状態”、あるいは“理想の状況”を表す言葉として次第にポピュラーとなった表現です。

【MADE IN THE SHADE】とは、ある意味でもうひとつの“クール”、灼熱の暑さやまばゆい夏の日差しを忘れさせ、豊かな木陰での休息に辿りついた時のような束の間の“涼やかさ”を連想させる言葉です。歴史的に“光”を操り、“光”を表現することへの挑戦は、写真家たちが元来、深く関わってきたテーマです。

“光で描く”には、アーティストとしての卓越した技量が要求されます。しかしながら、その実現こそが、写真というメディアを“独特なブランド”にする所以でもあるはずで。“光”は常に、アーティスト独自の表現力に深く共鳴し合う存在なのです。

自然界の本質を明らかにするにしても、コンセプトを表現するにしても、【MADE IN THE SHADE】展に選ばれた写真家たちはこの共通の意味を共有しています。

ラズロ・モオリー・ナギーの彼の妻、ルシアが浜辺でリラックスする写真では、彼女の顔はビーチパラソルで遮られています。一方、ローレン・グリーンフィールドは自意識の強い思春期を日焼けしたベッドで表現しています。ハリ・キャラハンによる、彼の妻、エレノアへのインティメートな一連の習作は“キアロスкуро”(=美学用語:明暗の配合による表現法)によって、作品に生命が吹き込まれています。そして、ジョン・シャルコフスキーは昼下がりの光の移り変わりを空中の塵で表現し、エリオット・アーウィットのスナップショットでは、木々の天蓋の下で催されたヌーディスト・パーティーでの厚かましい息抜きの場面を捉えています。

そして、プレイボーイ、ヒュー・ヘフナー、007 ショーン・コネリー、チャンピオンボクサー、モハメド・アリのポーレートは彼らの人生そのものが“クール”を具現化していると言えるでしょう。

【MADE IN THE SHADE】展では、ハリ・キャラハン、フィリップ・ロルカ・ディコルシア、エリオット・アーウィット、ラリー・フィンク、ロバート・フランク、リー・フリードランダー、エメット・ゴウウィン、ローレン・グリーンフィールド、マーク・クレット、ジョズリン・リー、ラルフ・ユージン・ミートヤード、ラズロ・モオリー・ナギー、ジュディス・ジョイ・ロス、スティーヴ・スカピーロ、トーマス・シュツルット、菅原一剛、ジョン・シャルコフスキー、ゲイリー・ウィノグラッド、さらにマグナムの写真家たちとその他の作家の作品が展示される予定です。